

将来の在宅医療の必要量(資源数)調べ

【算出方法】

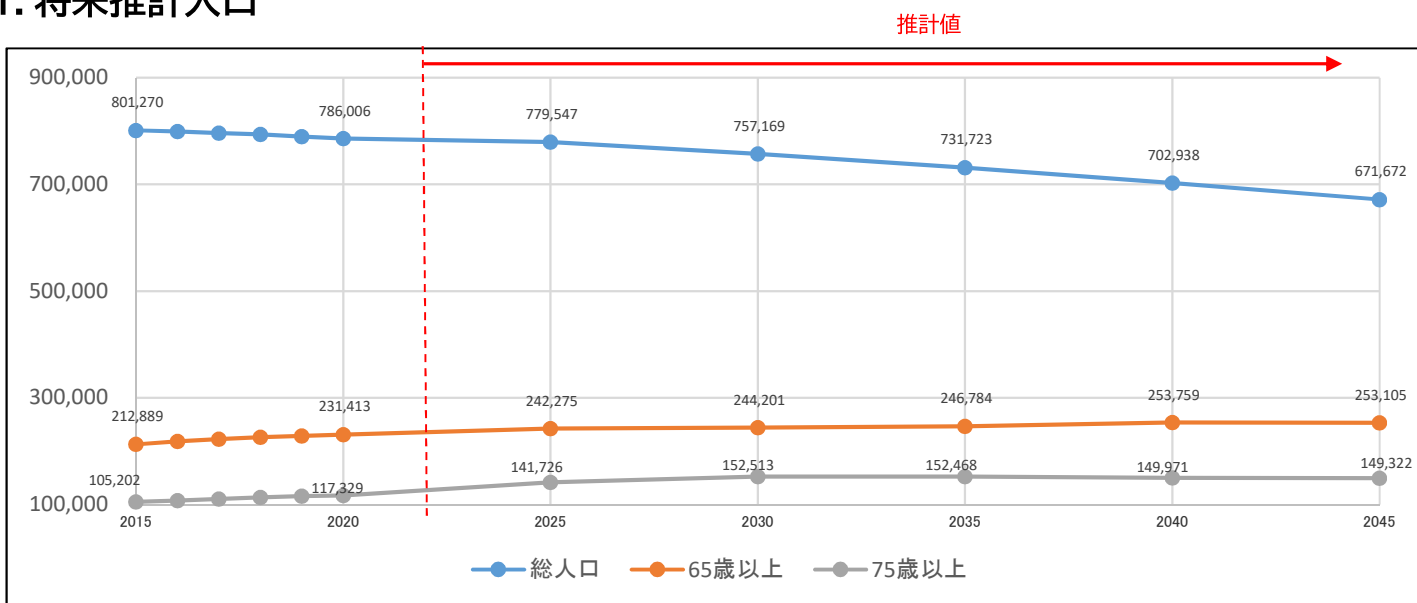
- ・H28年度から毎年実施している「新潟市医療資源調査」による、直近3か年（2018～2020）の在宅医療資源量を、75歳以上人口に乘じ、10万対指数の3か年平均値を算出。
- ・それを75歳以上の将来推計人口に乘じて将来の必要量を算出した。

回収状況	医科診療所	歯科	医科病院	訪問看護ST	薬局	総数
対象数	493	486	43	78	451	1,551
回答数	431 (87.4%)	394 (81.1%)	43 (100.0%)	77 (98.7%)	428 (94.9%)	1373 (88.5%)
HP公開可(可/対象数)	312 (63.3%)	321 (66.0%)	41 (95.3%)	70 (89.7%)	387 (85.8%)	1131 (72.9%)

(参考)算定シート

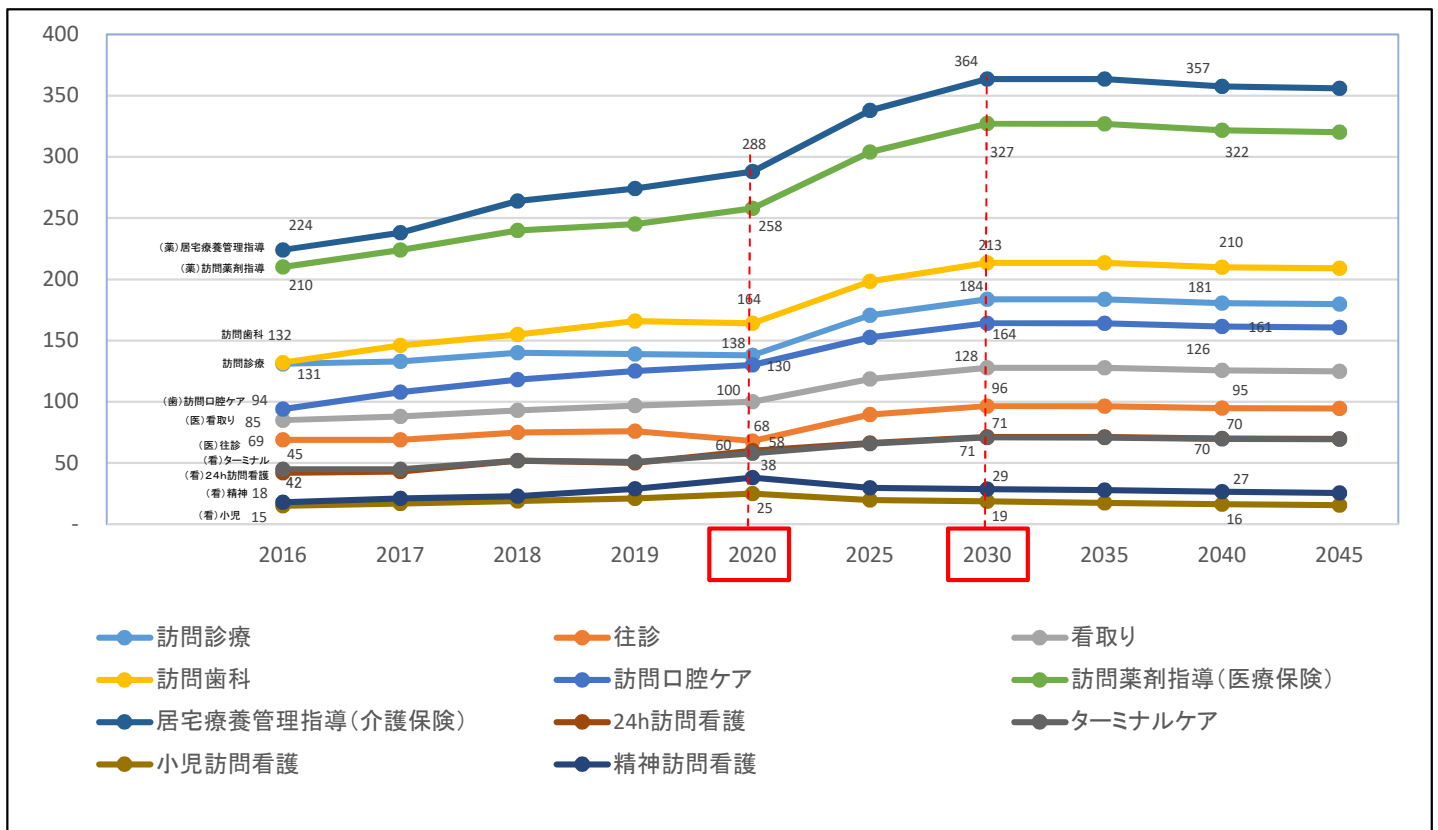
年度	総人口	65歳以上	75歳以上	20歳未満	医科診療所			歯科診療所		薬局		訪問看護				
					訪問診療	往診	看取り	訪問歯科	訪問口腔ケア	訪問薬剤師(医務保護)	在宅医療管理師(小児専門)	24h訪問看護	ターミナルケア	小児訪問看護	精神訪問看護	
2015	801,270	212,889	105,202	137,209												
2016	799,345	218,297	107,723	136,150	131	69	85	132	94	210	224	42	45	15	18	
2017	796,269	222,760	110,835	134,387	133	69	88	146	108	224	238	43	45	17	21	
2018	794,166	226,396	113,256	132,991	140	75	93	155	118	240	264	52	52	19	23	
2019	789,897	228,858	115,829	130,997	139	76	97	166	125	245	274	50	51	21	29	
2020	786,006	231,413	117,329	129,087	138	68	100	164	130	258	288	60	58	25	38	
2025	779,547	242,275	141,726	120,080	171	90	119	198	153	304	338	66	66	20	30	
2030	757,169	244,201	152,513	112,447	184	96	128	213	164	327	363	71	71	19	29	
2035	731,723	246,784	152,468	105,896	184	96	128	213	164	327	363	71	71	18	28	
2040	702,938	253,759	149,971	99,607	181	95	126	210	161	322	357	70	70	16	27	
2045	671,672	253,105	149,322	94,240	180	94	125	209	161	320	356	70	69	16	26	
(2020年と2030年の差)					▲46	▲28	▲28	▲49	▲34	▲69	▲76	▲11	▲13	▲6	▲9	
75歳以上人口に対する 資源量10万対					訪問診療	往診	看取り	訪問歯科	訪問口腔ケア	訪問薬剤師(医務保護)	在宅医療管理師(小児専門)	24h訪問看護	ターミナルケア	小児訪問看護	精神訪問看護	
					2018	123.61	66.22	82.11	136.86	104.19	211.91	233.10	45.91	45.91	14.29	2.90
					2019	120.00	65.61	83.74	143.31	107.92	211.52	236.56	43.17	44.03	16.03	3.67
					2020	117.62	57.96	85.23	139.78	110.80	219.89	245.46	51.14	49.43	19.37	4.83
					平均	120.41	63.26	83.70	139.98	107.64	214.44	238.37	46.74	46.46	16.56	3.80
人口:新潟市ホームページ																
将来推計人口:国立社会保障・人口問題研究所																
新潟市医療資源調査																

1. 将来推計人口



- ・人口は減少するが、65歳以上人口は2040年まで増加する。
- ・在宅医療需要の多くを占める75歳上人口は2030年にピークを迎え、今より約35,000人増加する。

2. 主な在宅医療資源の必要量



- ・上記算出方法に基づき、75歳以上人口がピークを迎える2030年と、2020年の差(=不足量)を算出した結果は次のとおり。

2020年と2030年の差(不足量)

1.訪問診療	2.往診	3.看取り	4.訪問歯科	5.訪問口腔ケア	6.訪問薬剤指導(医療保険)	7.居宅療養管理指導(介護保険)
46	28	28	49	34	69	76
8.24h訪問看護	9.ターミナルケア(訪看)	10.小児訪問看護	11.精神訪問看護	※「10」は20歳未満、「11」は全人口、ほか75歳以上人口に乗じて算出		
11	13	△6	△9			

3. まとめ

- ・今回の算定は、現在の資源量を将来推計人口に機械的に乗じたものであり、誤嚥性肺炎、骨折などの疾患や医療的ケア児等の医療ニーズの増加を踏まえたものではない。
- ・今回の算定は、資源量を捉えたものであるが、医療施設(静態)調査結果や、県作成のレセプトデータを活用した分析ツール等から実態を捉えていく必要がある。
- ・厚労省から示されている在宅医療の提供体制に求められる医療機能の入退院、日常の療養、急変時、看取りの4つの場面でデータを整理し、在宅医療の推進及び医療・介護連携の強化に向けた取組みを検討していく。